

もっと、もっと、
鹿児島。

鹿児島初の
女性知事を！



米丸 まさ子

【プロフィール】

1975年5月1日生まれ。姶良市出身。牡牛座。A型。

姶良市立帖佐小学校、鹿児島純心女子中・高等学校、亜細亞大学経営学部卒業、英国ブライ頓・ビジネス・スクール(MBA経営学修士課程)修了。ブランド・コンサルティング会社を経て、2007年鹿児島にUターン。仕事を通じて社会に奉仕することをモットーに、家業経営に従事。

前・鹿児島県議会議員。

【趣味】

錦江湾を眺めながらのサイクリング、鹿児島のパワースポットでのヨガ、国内外旅行、油絵

【所属】

薩摩トライアスロンクラブ、2730地区国分ロータリークラブ、姶良市商工会女性部、姶良市国際交流協会、国際ソロプチミスト鹿児島、三州俱楽部

《米丸まさ子後援会事務所》

姶良本部 | 899-5431 鹿児島県姶良市西餅田3288

鹿児島本部 | 892-0828 鹿児島県鹿児島市金生町7-9 TMビル1F

TEL 0995-56-8088 FAX 0995-55-1581 (TEL・FAX各事務所共通)

MAIL teammaki.kagoshima@gmail.com WEB makikoyonemaru.jp



後援会討議資料

米丸 まさ子
よねまる

すべての県民の所得向上と、
鹿児島で生きる幸せを。

人口減少社会に向き合う、
新・かごしま創生ビジョン。



もっと、もっと、よくなる鹿児島 15の約束。

【人口減少社会】

01 若い世代が希望持てる 人口減少対策。

- 子どもファースト戦略による出産・子育て環境の整備、若い世代の就労・婚姻比率の引き上げ政策などで人口減少社会に対応。
- 産業振興による若い世代の「所得分配」「雇用創出」の向上、地域経済循環の改善による雇用創出などを推進。
- 若い世代の県内定着の促進、安定した生活が営める環境整備。
- 県立短大の一部4年制化と公立の4年制大学及び将来を見据えた情報工学部などの新設の検討。

【子育て・教育】

02 子どもファースト戦略、 学びの改革。

- 子ども医療費窓口負担ゼロの実現。
- 学校給食費の無償化、オーガニック給食の取り組みを推進。
- 県独自に保育士・幼稚園教諭の待遇を改善。
- 産前産後ケアを無償化、利用しやすい病児保育を支援。
- 児童相談所の体制強化と児童虐待防止対策の推進。
- 特別支援学校の教育環境を整備。
- 英語教育の県独自の抜本的改革を図る。
- フリースクールなど不登校の子どもたちが学ぶための助成。
- 海外留学支援基金を創設し、グローバル人材を育成。

【女性支援】

03 女性の多様な生き方を 支える社会。

- 女性が自分らしく生きるために学び直し、就業、創業を支援。
- 女性の非正規雇用から正規雇用への転換支援の推進。
- 女性の健康維持・増進を支援するヘルスケアプログラムの強化。
- 不妊治療の助成金制度の強化。
- STEAM分野(科学、技術、工学、芸術、数学分野)への女性進出支援。
- 誰でも利用できる県庁舎内保育所を設置。
- 各種審議会等の女性割合の引き上げ。

【高齢者支援】

04 すこやか 健康長寿社会の推進。

- 住まい、医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築。
- 要介護認定者に対応した介護人材の育成・確保など医療介護体制の整備強化。
- 人生100年時代を見据えた健康教育・健康相談・訪問指導・検診機会の拡充など生涯スポーツや生涯学習など、学び、活躍できる環境の整備。
- 就労希望する高齢者に様々な業務を提供するシルバー人材センターの拡充。

【産業振興】

05 県民所得アップ! 「稼ぐ」と「分配」を強化する。

- 県産品の競争力を高め、国内・海外への販路拡大を目指すマーケティング・ブランド戦略室を新設。
- 経済拡大に沿って「分配の財源」を確保し、県民所得の向上を図る。
- 地域再生可能エネルギー産業の推進とエネルギー地産地消など、地域経済が潤う政策を促進。
- 離島港湾を含む地方港湾と国際物流港湾機能をもつ川内港、志布志港、鹿児島港と名瀬港、西之表港など重要港湾の整備を計画的に確実に推進。
- 鹿児島空港を「一つの街」に。熊本、宮崎を経済圏に巻き込み、鹿児島県の副都心をつくる。

06 「豊かな食の国」戦略、 農林水産業をもっと強く。

- 南北約590キロに及ぶ温帯、亜熱帯の地理的条件をベースとした戦略的な食料供給基地の構築と食料供給力アップ。
- 農家の収入を増やし、豊かさを実感できる農業所得最大化戦略を推進。
- 農林畜水産物のブランド化と、有機農業産地オーガニックビレッジ構想を推進。
- ロボット技術や人工知能(AI)等を活用したスマート農業の推進により、生産性・品質の向上、労働不足を解消。
- 豊かな海を生かした漁業、養殖業の推進、担い手の育成・確保、水産技術の開発。

07 世界が認める 観光立県・かごしまへ。

- ドルフィンポート跡地を最大限に生かすため、新体育館建設計画の見直し。
- 同跡地は、壮大な桜島と錦江湾の風景を誰もが楽しめ、鹿児島の食や暮らし・文化などを丸ごと世界に発信できる公共パブリックスペースに。
- インバウンド観光の玄関口、鹿児島空港の再整備と民営化。
- 鹿児島版DMO(観光地域作りを行う法人)を設立。
- 県単独の鹿児島フェアの海外実施による、世界的な認知度の向上。

08 最先端技術の活用で、 新産業を創出。

- 最先端デジタルテクノロジーを活用し、人手不足解消、生産性向上、人材育成などを促進。
- 介護・福祉分野でロボット技術、人工知能(AI)などを活用し、高度な高齢者ケアの产业化。
- 市町村と連携しながら地域課題解決のための実証実験の場を広げ、優良企業を呼び込む。

【エネルギー】

09 原発に頼らない社会、 再生可能エネルギー先進県へ。

- 建設が計画されている川内原発3号機の建設中止を求める。
- 現在稼働中の原子力発電所は段階的に停止し、2050年までのカーボンニュートラル実現に向けて再生可能エネルギーへの転換を推進。
- 運転延長される1・2号機の安全性確保と施設全体の安全性、耐震性の徹底した点検を求め、原子力防災計画の見直しを進める。
- 原子力発電所立地道県13道県で設立された原子力発電関係団体協議会において、立地道県と連携して安全性の確保、防災対策など国への積極的な要望を行う。

【平和・安全保障】

10 地域住民の声を大切にし、 自治体平和外交を推進。

- 南に開かれた本県の地域特性を生かし、特にアジア、太平洋地域との平和外交を推進するため地域平和交流室を設置。
- 馬毛島基地の諸問題解決に向けて、国、県、関係市町、関係事業者との連絡協議会を設置。

【離島対策】

11 島々の 安心と暮らしを守る。

- 離島の魅力を生かした観光と産業の振興。
- IT・ターン・Uターン促進策などによる島の活性化。
- 港湾機能や防災体制の強化、離島の交通ネットワークの形成。
- 離島医療・福祉体制の充実と奄美群島振興策の継続強化。

【医療・福祉・防災】

12 地域の人々の 命と健康を守る。

- 県全土をカバーする救命救急センターの整備強化。
- 医療・福祉の現場を支える看護・介護職の待遇改善。
- 地震や台風などの災害時における災害医療の体制強化。
- 南海トラフ巨大地震・集中豪雨・火山噴火などの自然災害に備えた県土づくり

人口減少社会に向き合う、
新・かごしま創生ビジョン。



13 貧困や孤立・孤独のない まちづくり。

- 考え方や価値観、性別、年齢、障がいの有無など、お互いを認め合う多様性(ダイバーシティ)社会の推進。
- 外国人県民の就労などを支援する多文化共生社会を推進。
- ヤングケアラーの困窮防止を支援するための体制づくり。
- 孤独死防止、身寄りのない単身世帯対策の強化。
- 家庭内暴力(DV)など、あらゆる暴力から県民を守る対策促進。
- 障がい者一人ひとりのニーズにあった暮らしを支援。

【文化・健康】

14 アート&スポーツ 先進県。

- 芸術・アートを活用した健康づくりと地域活性化を推進。
- 地域の伝統文化や祭りなど文化遺産の継承活動の支援。
- 観光客に向けた、伝統文化の紹介イベントの実施。
- 国内外から人が集まる、ヨガ、音楽、ダンスなどのフェスティバルの聖地に。
- 九州経済圏を巻き込んだ、ツール・ド・九州(自転車ロードレース大会)を開催。

【県政改革】

15 県政の透明化、 開かれた県庁。

- 誰でも参加可能な、まき子と語る会を定期開催。
- SNSなどを生かした県庁のネット発信力を強化。
- 県庁職員の異動期間を8~10年とする枠を設け、スペシャリストを養成。
- 職員と県民との対話の機会を増やすし、県民目線の働きがないのある職場づくりの構築。
- 定期的な業務見直しなど情勢変化に対応した組織体制の合理化を行い、職員が本当に求めている業務に集中できる環境を整備。